

# FBS

## フリップボード・ストーミング

発言が苦手な人の多い場で徐々に意見を引き出す  
フリップボードを用いたアイデア会議方法

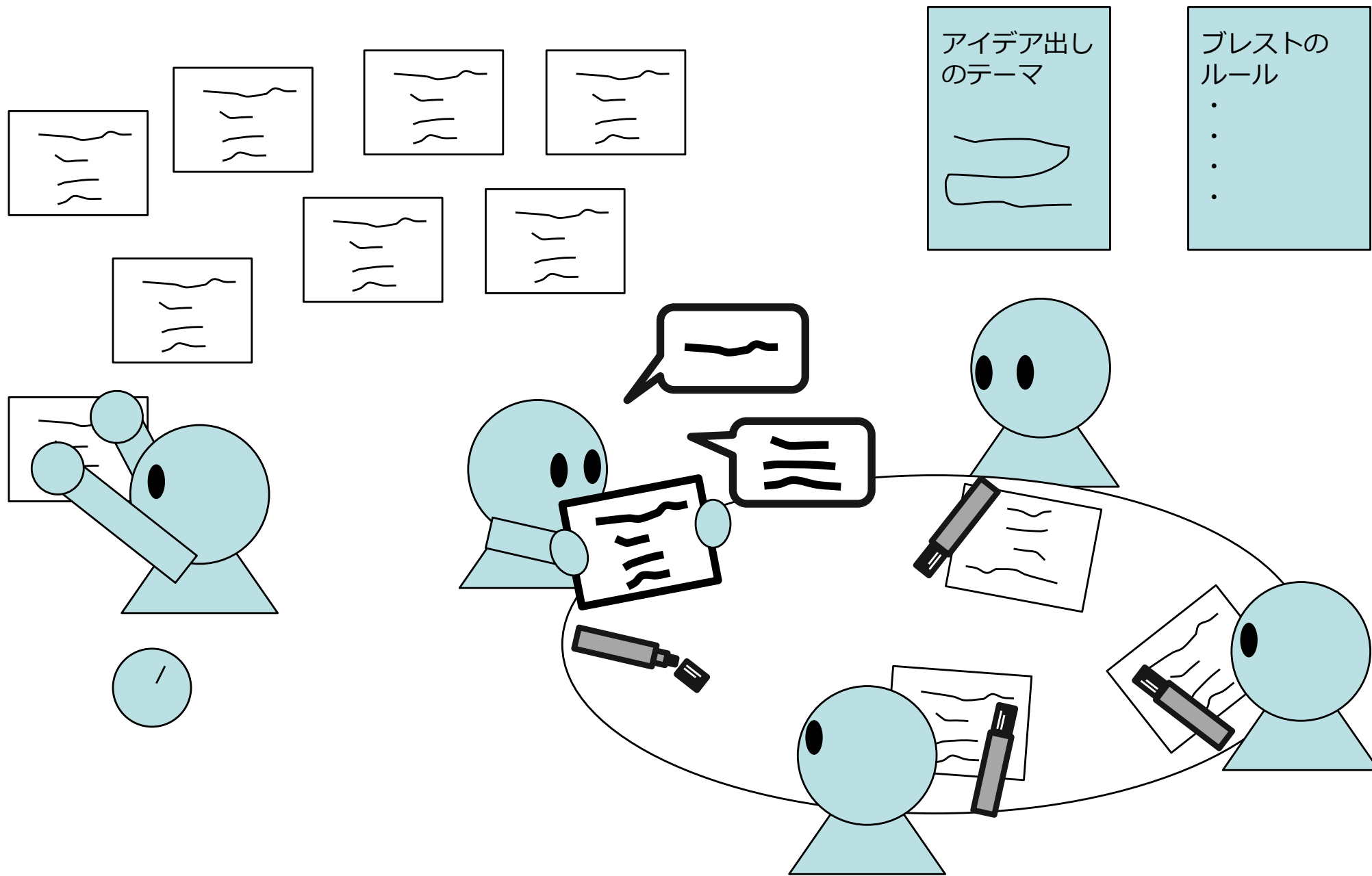
BS (ブレイン・ストーミング) が広がるほど  
場が暖まっていらない。

BW (ブレイン・ライティング) をするほど  
時間十分な時間も無い。

そういう時には？



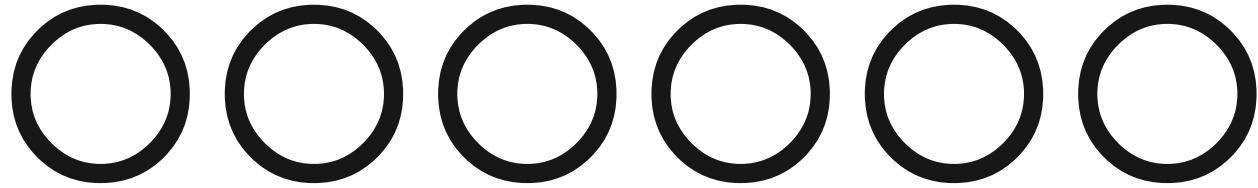
FBS (フリップボード・ストーミング)



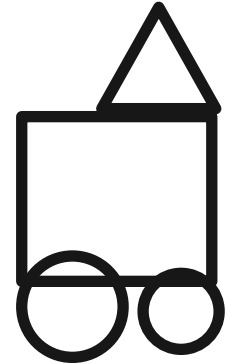
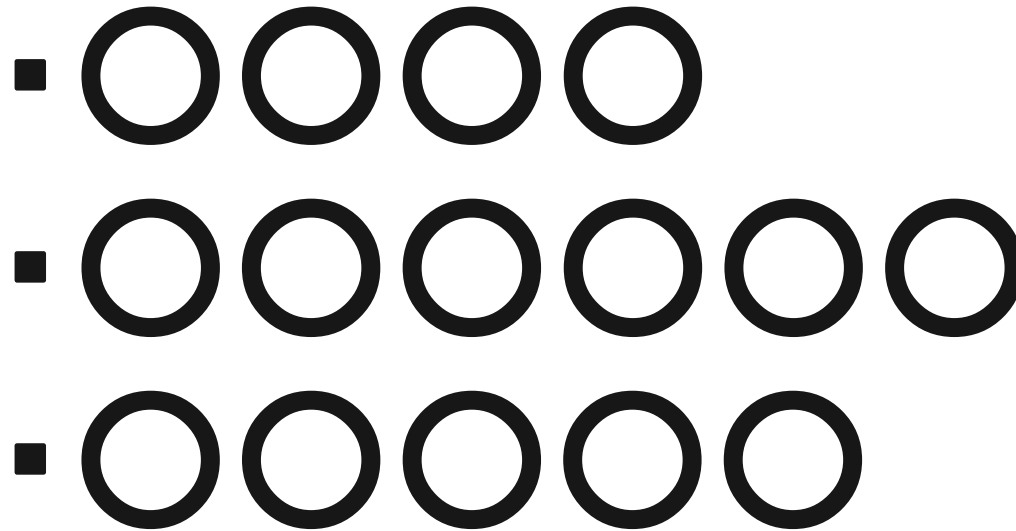
【実施イメージ】

# アイデアスケッチの例

アイデア



簡単な説明  
短文で、  
多くて  
3つまで



挿絵もOK

# 手順

1. フリップボードとペンを配る。
2. 発想のテーマを説明する。
3. 3分で、各自がアイデアを書く。  
(1ページ=1アイデア) (大きい字で。絵も可)
4. 時間がきたらボードを立てて、各自、それを使って説明。(複数書いていけば二周、三周)
5. 他の人はそのアイデアの良いところをコメントをしたり、周辺にある派生アイデアを出す。(コメント長すぎに注意)
6. 使ったフリップは見えるところに置くか、張り出す。

書き方は自由でよい。

「アイデア・スケッチ」  
で書くのも良い。

## 次の3分、またアイデアを書く。

- ・他の人のアイデアをヒントにしたり、
- ・自分がコメントした派生案を整えて書いたり、
- ・新規にアイデアを出したりする。

## 同様に先の4.5.6.を実施。

2周、3周行くと「こんな感じのアイデアを出せばいいのか」「割と何を発想しても受け入れられる」という雰囲気が醸されるので、普段出さないメンバーも、徐々に発現するようになる。慣れてきたら、後は通常のブレストにしてもよい。

# 効果

## 普段発言しない人からも出してもらえる。

アイデアが無いのと発言をしないのは別物。コミュニケーションの形態を調整することでアイデアを引き出すことはある程度可能。

## 多様な意見を多様なまま、出してもらえる。

口頭でアイデア出しを行う場合、発言待ちの人は、組織長の発言に強く影響を受ける。オリジナルの意見の変わりに「私も賛成です」という意見収束を自然と生んでしまう。多様な選択の必要な場面では好ましくない。

## 絵的な概念も示せる。

アイデアの中には「図を書いて見せれば、簡単に表現できるタイプのものがある。技術系などは特に。そうした意見を口頭で言うのは、発言者も聞き手もとても知的努力を必要とする。

## 考える時間が取れる。

3分は個人発想、5~10分はシェア&コメントというグループ発想。黙って集中して考えることを好む人には、通常のブレストでは考えにくいところもある。FBSの場合、個人→集団→個人→集団、と繰り返すことで、集団の発想刺激と、個人で考える時間の両方をもてる。

## アイデアを紙に残せる。

書記がいなくてもアイデア出しを紙にとどめておける。可能ならメンディング・テープで出したアイデアを壁に張っていくとムードがより醸され、参照性もよく、発想の材料にしやすくなる。

## フリップボードの代用品

「フリップボード」の代わりに「スケッチブック」でもよい。100円ショップで手に入る、A4より一回り小さいものがオススメ。持ち運び、保管、張り出しなどの際に使い勝手がいい。

慣れてくれば「クリップボード（挟み板）」とA4紙でもOK。

## ペンは、太く書けるものを用意（強く推奨）

太ペンは、文字が大きくなる。アイデアをより効果的に見せる効果がある。ボールペンや鉛筆はNG。遠い席の人に見えない。

裏写りしない「プロッキー」や「ポスカ」がペンだと便利。油性ペンは沁みて机や次の紙を汚してしまわないように気を使い、集中させにくい。

色は何色でも良い。バラバラでOK。（黄色だけは見えにくいものあり）